小橋工業(株)のホームページ（以下、弊社サイト）においては、カタログ・取扱説明書・パーツリスト等の電子データの閲覧、ダウンロードのサービス（以下、本サービス）をご提供しております。
本サービスをご利用の際には、以下の注意事項をご確認ください。

電子データの取扱いについて

電子データの内容について

■本サービスにおいては、弊社製品のカタログ、取扱説明書、パーツリスト等、製品に関する全ての印刷物を網羅するものではありません。

■カタログ、取扱説明書、パーツリストの内容は、製品の仕様変更などにより、予告なく変更される場合があります。その為、弊社サイト内に掲載される電子データの内容は、販売店等で配布、掲示されるカタログ、製品購入時に同梱する取扱説明書、印刷物として存在しているパーツリストの内容とは異なる場合がございます。

表記内容は、発行当時の情報であり、弊社純正部品の名称、小売単価、各営業所の名称、所在地などの情報が現在と異なる場合があります。
また、製品安全上の取り扱い、環境対応につきましては、製品販売時の法令、規制に適合するものであり、製品販売後の法令、規制の変更内容を反映していない場合があります。予めご了承ください。

著作権について

本サービス内の電子データにつきましては、弊社（小橋工業株式会社）が著作権その他知的財産権を保有します。
無断で他のウェブサイトや印刷媒体に転載することや複製、翻訳等はできません。
但し、お手持ちの製品ご使用の為、1部に限り印刷することができます。

保証について

弊社の製品保証、安全性の保証は製品付属の書面に基づく保証に限られており、弊社サイト内の電子データに基づく保証は提供いたしません。

お問合せについて

ご使用の製品の取り扱い及び、使用上の安全等に関するお問合せは、ご購入店にご相談頂きますよう、お願いいたします。

免責事項

弊社サイトのご利用に起因するソフトウェア、ハードウェア上の事故その他の損害等につきましても、一切の責任を負いません。
弊社サイトのご利用に際して生じたお客さまと第三者との間のトラブルにつきましては、一切責任を負いません。
弊社サイトのサービスは予告なく中止、または内容や条件を変更する場合がございます。

以上

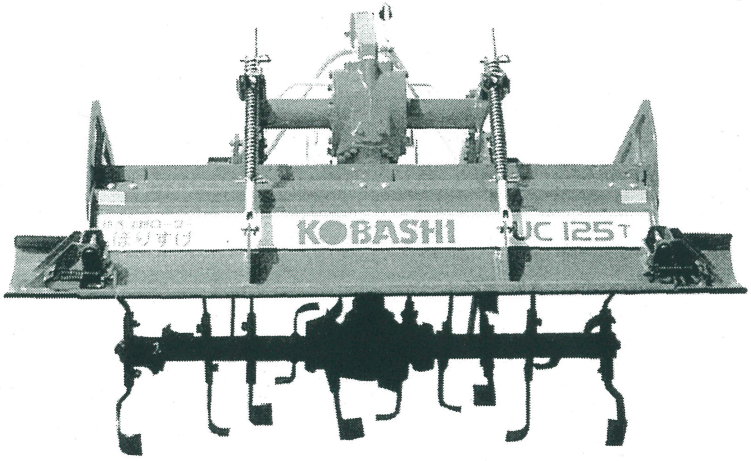
小橋工業株式会社

安全頁必読

コバシ深耕ローター

取扱説明書

UC125T.145T.165T-(4S.3S.0S)
UC125.145.165-(S.T.U.MU)
UC125.145.165



UC125T-3S

当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。誤った使いかたをすると、事故を引き起こす恐れがあります。
お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。

KOBASHI
小橋工業株式会社
〒701-0292 岡山市南区中畦 684

2017年版
0142085
-003

はじめに

このたびはコバシ深耕ローターをお買いあげいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は、深耕ローターの性能を十分に発揮させ、より安全で快適な農作業をしていただくためにも、ご使用前によくお読みいただき、正しい取扱いをしてくださるようお願いいたします。
又、深耕ローターを他の人に貸出しされる場合には、この取扱説明書も併せて貸出していただき、正しい取扱いをしていただくようにご指導をお願いいたします。
なお、本製品については、不断の研究成果を新しい技術としてただちに製品に取り入れておりますので、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますが、あらかじめご了承ください。

⚠ 安全作業のポイント

◎安全な作業をしていただくためには、まず機械の使い方を十分理解し、正しい取扱いをすることが基本となります。
◎この取扱説明書では、特に、重要と考えられる取扱い上の注意事項について、次のように表示しています。
必ずお読みいただいて事故のない安全な作業をしてください。

⚠ **危険**…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠ **警告**…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ **注意**…その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示します。
取扱い上の注意…その警告文に従わなかった場合、機械の損傷を起こす恐れのある操作を示します。

コバシ深耕ローターの使用目的・使用範囲

この深耕ローターは耕うん作業用です。
使用目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。

目　次

⚠ 安全に作業するために ……1
1. はじめに ……1
2. 作業の前に ……2
3. トラクタへの着脱 ……2
4. 防護カバー類の取付け ……2
5. 装着時の前後バランスの確認 ……2
6. トラックへの積み・降ろし ……3
7. 一般走行 ……3
8. 圃場への出入り ……4
9. 作業をしているとき ……4
10. 作業中の点検 ……5
11. トラクターを止めるとき ……5
12. その他 ……6
⚠ 安全ラベルの取扱い ……7
サービスと保証について ……9
各部の名称 ……10
深耕ローターの組立（日農工３P） ……11
深耕ローターの組立（特３P） ……12
深耕ローターの組立（直装） ……13
ジョイントの取付準備 ……14
1. 切断方法 ……14
2. 取付方法 ……14
3. 長さの確認 ……15
4. 入力軸セフティカバーの取付け ……15
トラクタへの装着
（日農工標準オートヒッチ） ……16
1. 装着前の準備 ……16
2. トラクタへの装着 ……18
3. トラクタからの取外し ……20
4. 装着後のトラクタとの調整 ……21
トラクタへの装着
（日農工特殊３Pヒッチ） ……22
トラクタへの装着（直装） ……23
作業前の点検 ……24
1. 各部のボルト・ナットのゆるみ ……24
2. ジョイントへのグリスアップ ……24
3. オイル量 ……24
4. ジョイントのノックピン ……25
5. 空転、暖機運転 ……25
移動・圃場への出入り ……26
耕うん爪種類との取付方法 ……27
1. 耕うん爪及び取付けボルトの種類と本数 ……27
2. 耕うん爪取付方法 ……27
上手な作業の仕方 ……29
1. 作業速度と耕うん軸回転数 ……29
2. エプロンの調整 ……29
3. 作業操作 ……30
4. EXエプロンの使用 ……30
保守・点検 ……31
保管・格納 ……32
主要諸元 ……33
トラクタ別装着表 ……36
点検整備一覧表 ……41
異常診断一覧表 ……42
用語解説 ……44

⚠安全に作業するために

安全に作業していただくために次のことを守ってください。
もし怠ると…傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります。

1 はじめに

1-1 取扱説明書をよく読み、機械の使い方をよく覚えてからご使用ください。
トラクターの取扱説明書もあわせてよくお読みください。
機械の操作を知らずに使用するとたいへん危険です。

1-2 取扱説明書は、いつでも読めるように、機械と一緒に大切に保管してください。

1-3 機械を他人に貸し出しされる場合は、取扱説明書も併せて貸出していただき、正しい取扱いをしていただくように、指導してください。

1-4 適応トラクター以外への装着の禁止
主要諸元表に適応トラクター馬力を表示していますので熟読の上、適応馬力内のトラクターに装着してください。特にトラクター馬力が小さい場合はトラクターと重量バランスが悪くなり事故の原因となります。

1-5 服装には注意を払いましょう
作業中の服装は、ヘルメット、シートベルト、すべらない靴、キチンとした作業服を着用してください。だぶついたズボンや上着など、回転部分に巻き込まれやすい服装は、たいへん危険です。ボタンもキチンととめましょう。

1-6 次のような状態では運転しないでください。
① 飲酒運転
② いねむり運転
③ 病気や薬物の作用で正常な運転ができないとき
④ 若年者
⑤ 妊娠中の方
機械の操作に十分熟練し、必要な運転免許証を携帯し、心身ともに健康な状態で運転してください。

1-7 共同作業者がある場合は、動作ごとに合図を徹底しましょう。

1-8 使用目的以外の作業や、機械の改造は事故の発生、又は、機械の故障の原因となりますので、決してしないでください。

⚠安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

2 作業の前に

2-1 機械の点検を

各部のボルト、ナットなどのゆるみや、ピンの脱落がないか確認してください。作業中にボルト、ナット、ピンなどが外れますと、作業機やトラクターの破損の原因及び事故の原因となります。

3 トラクターへの着脱

3-1 作業機の着脱及び調整は、平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行いましょう。特に夜間の作業機の着脱は、安全で適切な照明を用いる等、安全に留意して行ってください。

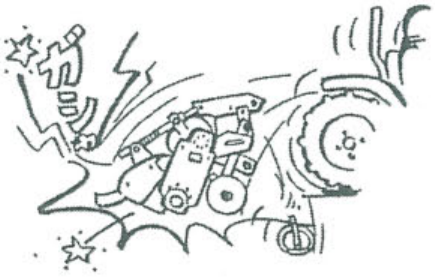
3-2 トラクターを移動して作業機を装着する場合には、トラクターと作業機の間に人が入らないように注意してください。

3-3 トラクターと作業機の着脱に際しては、いつでも逃げられる安全な態勢で操作し、このときトラクターは必ずブレーキで止めておいてください。

3-4 二人以上で着脱を行う場合は、互いに合図しあいましょう。

3-5 ジョイントのノックピンが、確実にＰＴＯ軸溝に、又作業機入力軸溝にはまったか確認してください。

3-6 取付各部のトメピンが全て確実に装着されているか確認してください。



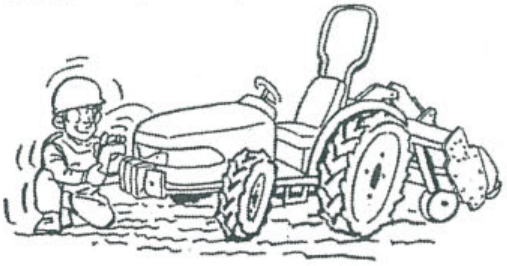
4 防護カバー類の取付け

4-1 ジョイントをはじめ、作業機のセフティカバー防護カバー類は必ず取付けてください。

5 装着時の前後バランスの確認

5-1 作業機とトラクターとのバランスの確認

作業機を装着すると機体の長さや幅が大きくなり、重量バランスが変わります。確認の上トラクターの前輪に20%以上のウエイトがかかるように、フロントウエイトを取付けてください。なお、作業機に泥が付着して、重たくなる場合もありますので注意してください。又、アタッチメント等を取付けて使用される場合もバランスの確認を行い、フロントウエイトを取付けてください。



⚠安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

5-2 作業機に他のアタッチメントを取付ける場合は、事前に必ずアタッチメントの取扱説明書を良く読んでください。

6 トラックへの積み・降ろし

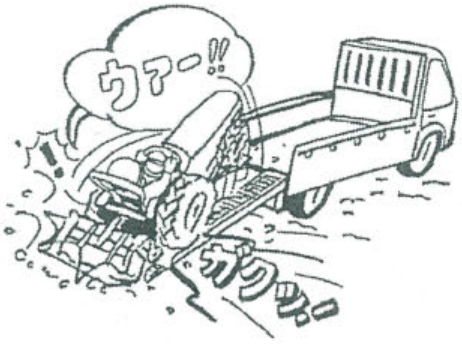
6-1 積み・降ろしの場所は平坦で安全なところを選びましょう。

6-2 すべり止めをした丈夫なアユミ板を確実に固定してください。傾斜角度、平行度を確認してください。

6-3 トラックは移動しないようにしっかりと車のサイドブレーキをかけてください。

6-4 トラクターの左右のブレーキペダルを連結し、脱輪しないように注意してください。又途中でクラッチを切ったり、変速を中立にしないでください。低速で積み・降ろしをしてください。

6-5 作業機を装着しての積み・降ろしはトラクターの重量バランスが変わります。泥の付着等もあり、十分注意して行ってください。



6-6 折りたためる作業機は折りたたみ、エクステンションエプロンもたたみ、トラックの荷台よりはみ出さないように注意し、強度が十分あるロープで確実に固定してください。

7 一般走行

7-1 トラクターは作業機を装着して公道を走行できません。
(道路運送車両の保安基準)
作業機を装着して走行すると、他の車や電柱などに引っかけて事故の原因になります。

7-2 トラクター・作業機には運転者以外の人を乗せないでください。

7-3 左右のブレーキペダルを連結して走行してください。

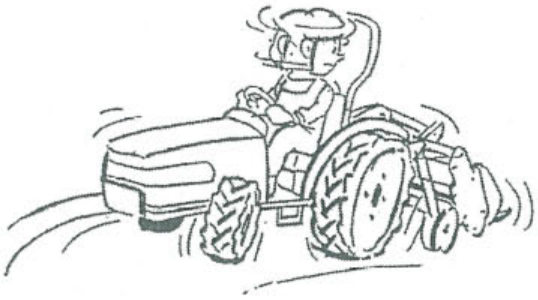
7-4 作業機の回転を止めて走行してください。

7-5 作業機の落下速度調節レバーを締めて、必ず油圧ロックをして走行してください。

7-6 必要以上の高速運転、急発進、急ブレーキ、急旋回をしないでください。

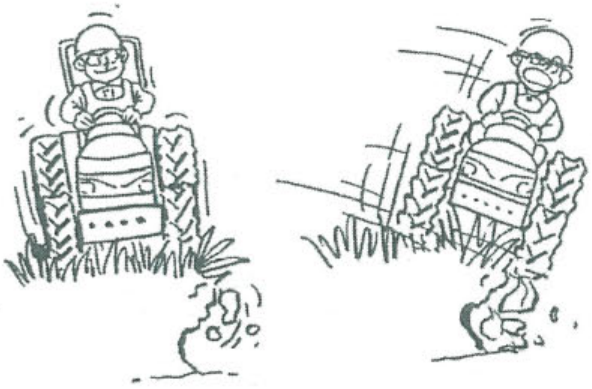
⚠安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

7-7 旋回するときは、作業機に人や物が接触しないように注意してください。



7-8 作業機は左右がトラクターの機体幅より広いため、走行時は十分注意してください。移動時は作業機の折りたためる箇所は折りたたみ走行してください。又スタンドがついている場合も必ず外してください。

7-9 路肩に草が茂っている所を走行するときは特に路肩の強度に気を付けてください。



7-10 坂道では、クラッチを切ったり、変速を中立にしないでください。

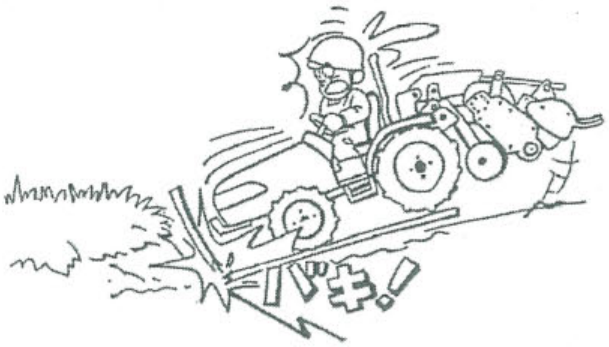
7-11 坂道では、スピードを落とし、低速で走行してください。

7-12 坂道では、エンジンブレーキを使用し、急ブレーキをかけないでください。

8 圃場への出入り

8-1 圃場に入るときは、必ず前進で速度を下げて、うねや段差に対して直角に進んでください。

8-2 圃場から出るときは、傾斜しているうねはバックで上るか、又は丈夫なアユミ板を使用してください。



8-3 うねや段差に対して斜め方向に進むと、横滑りや転倒する危険があります。作業機を低くして重心を下げ、直角に進めてください。

9 作業をしているとき

9-1 いねむり運転、わき見運転をしないようにあらかじめ体調を整えてください。

9-2 回転部分等、動く所には触れないでください。

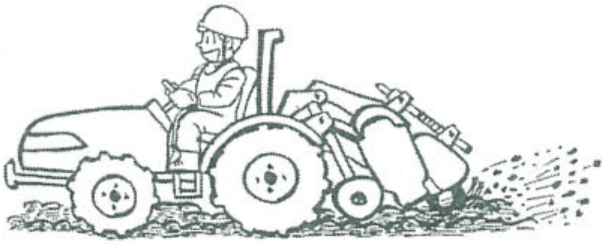
9-3 作業中は、まわりに人を近寄らせないでください。特に子供には十分注意してください。補助作業者がある場合は、動作ごとに合図をかわしてください。

9-4 運転者が運転位置をはなれて作業機を調整する場合、又、爪軸等への、草やワラのからみ付きを取りのぞく場合等は、必ずトラクターの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、かつ、ＰＴＯ軸への動力の伝導が絶たれていることを確認した上で行ってください。

⚠安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

9-5 作業機の下にもぐったり、足をふみこんだりしないでください。

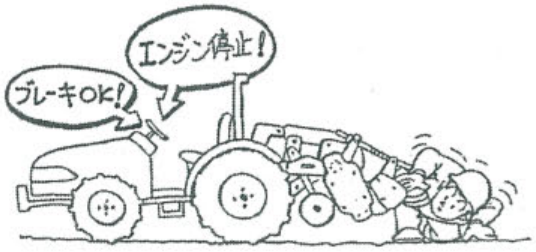
9-6 作業機のカバーは、土礫が飛散しないように調節してください。



9-7 ぬかるみにはまっても作業機は絶対に外さないで、他の車に引き上げてもらってください。牽引点は低くしてください。

10 作業中の点検

10-1 作業機の点検を行うときは、トラクターの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、かつ、ＰＴＯ軸への動力の伝導が絶たれていることを確認した上で行ってください。又、油圧ロックも必ず行ってください。



10-2 点検のために外した安全カバーは、必ず元の通りに取付けてください。

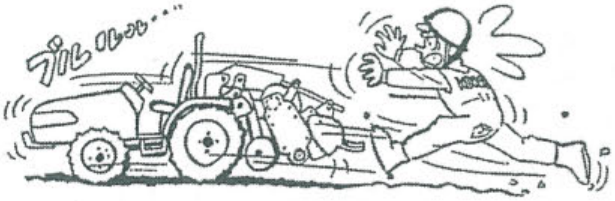
10-3 ラジエーター、マフラーは高温になりますので、ヤケドに注意してください。

10-4 点検整備に必要な工具類は、適切な管理を行い、正しい使用をしてください。

11 トラクターを止めるとき

11-1 平らな場所に止めてから、作業機を降ろしてエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてください。

11-2 傾斜地に止める場合は、タイヤに必ず車止めをしてください。



12 その他

12-1 作業機指定のＰＴＯ回転数を守ってください。低速回転用の作業機を高速回転で使用すると作業機が異常作動し危険です。

12-2 トラクターのエンジン始動時は、作業機が下がっていることを確認してください。
作業機が不意に下がることもあり危険です。

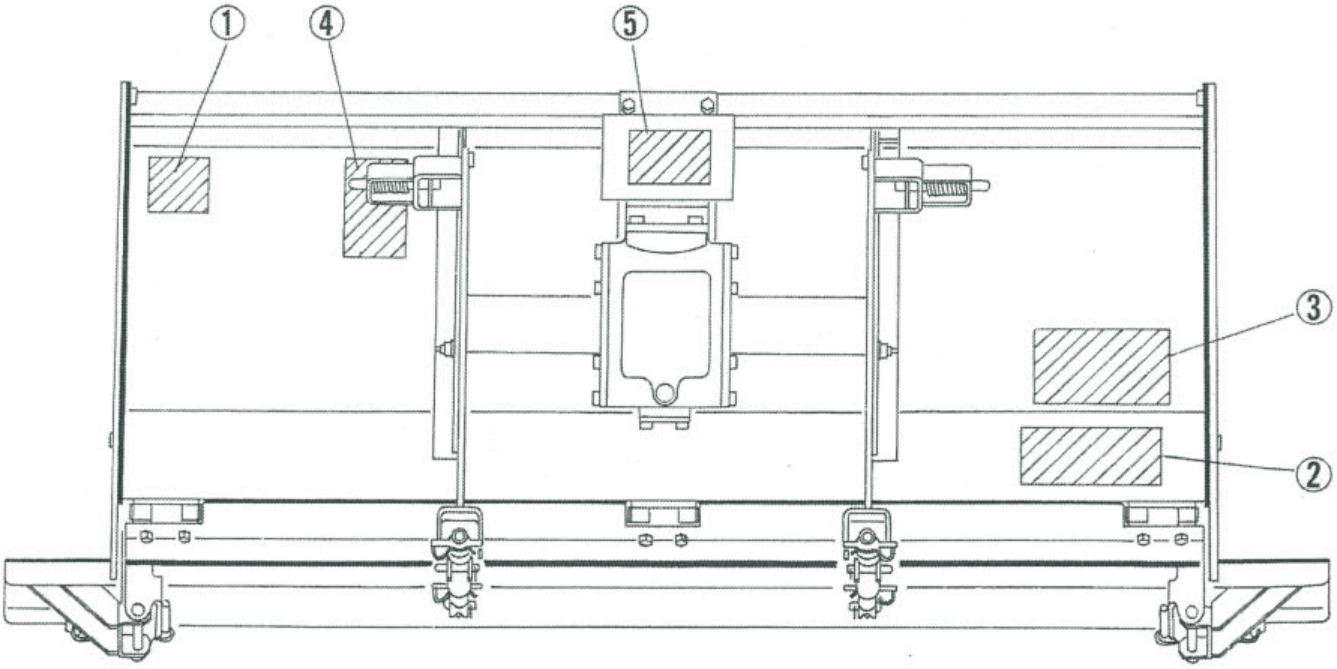
安全ラベルの取扱い

1 いつも汚れや泥をとり警告がハッキリと見えるようにしてください。

2 安全ラベルが損傷したり破損した時は、新しいものと交換してください。

3 安全ラベルを貼ってある部品を交換した時は、必ず新しい部品に、取り外した部品と同じ場所に安全ラベルを貼ってください。

コバシ深耕ローターには、次の安全ラベルが貼ってあります。よくお読みになって、理解した上で作業してください。



①　No.9992074

⚠警告

ロータリの回転部に接触すると、
ケガをするおそれがありますので、
回転部に近づかないでください。

9992074

④　No.9992127

⚠危険

●エンジンまたはジョイントが回転中は、体を近づけないでください。
●巻き込まれて、死傷するおそれがあります。

9992127

⑤　No.9992126

⚠危険

●セフティカバーは、常に装着して使用してください。
●巻き込まれて、死傷するおそれがあります。

9992126

②　No.9992086

⚠警告

●転落事故を防ぐためには、発進や登坂時にトラクターの前輪が浮き上がらないように充分な前部ウエイトを取り付けてください。
●作業機にアタッチメントを装着する時には、特にバランスを注意するとともに、アタッチメントの取扱説明書をよく読んで、適切な処理や調整を行ってください。

9992086

③　No.9992087

⚠注意

使用前に取扱説明書をよく読んで
安全で正しい作業をしてください。

1. 作業機を着脱するときは、トラクターと作業機の間に立たないでください。
2. エンジン始動時や作業中は、周囲の安全を確認し、人がいないか、特に子供には注意し、近づけないようにしてください。
3. 作業機の上に人を乗せないでください。
4. 点検整備時には、必ずエンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、油圧降下防止用ストップバルブを締めてください。また、絶対に作業機の下にはいって作業をしないでください。
5. ジョイントのノックピンが確実にロックされていることを確認してください。

9992087

サービスと保証について

1 保証書について

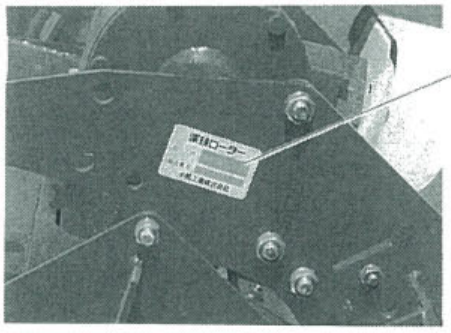
コバシ深耕ローターには保証書が添付してあります。保証書はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。保証内容は保証書をご覧ください。お読みになった後は大切に保管してください。

2 アフターサービスについて

機械の調子が悪いときに点検、処置してもなお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い上げ頂いた販売店、農協、弊社営業所までご連絡ください。

その際

- ●機械の型式名と製造機械番号
- ●ご使用状況（作業速度、回転数はいくらで、どんな作業をしていたときに）
- ●どのくらい使用されましたか（約○○アール・約○○時間使用後）
- ●不具合が発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教えください。



補修用部品の供給年限について

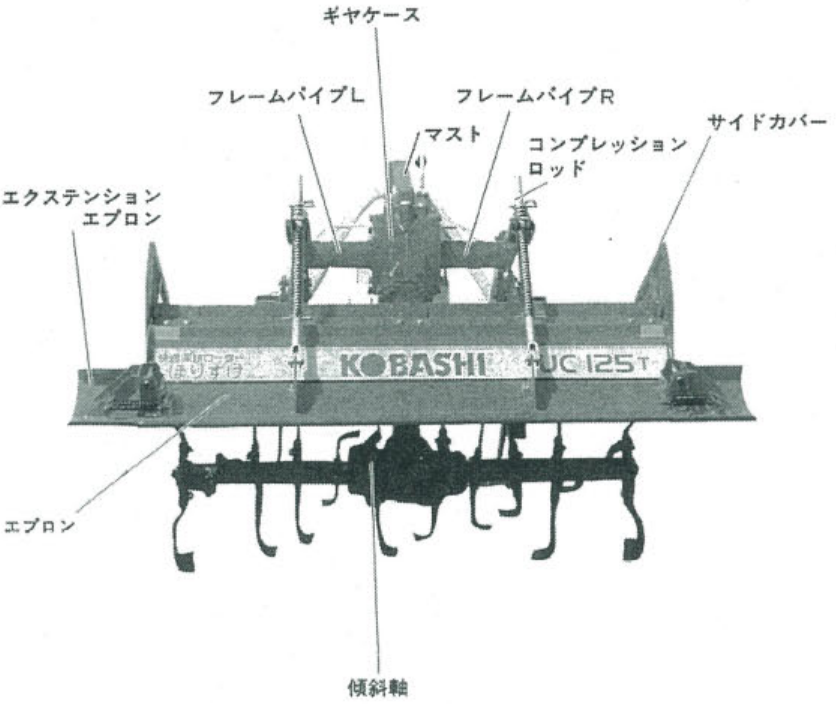
この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打切り後９年といたします。

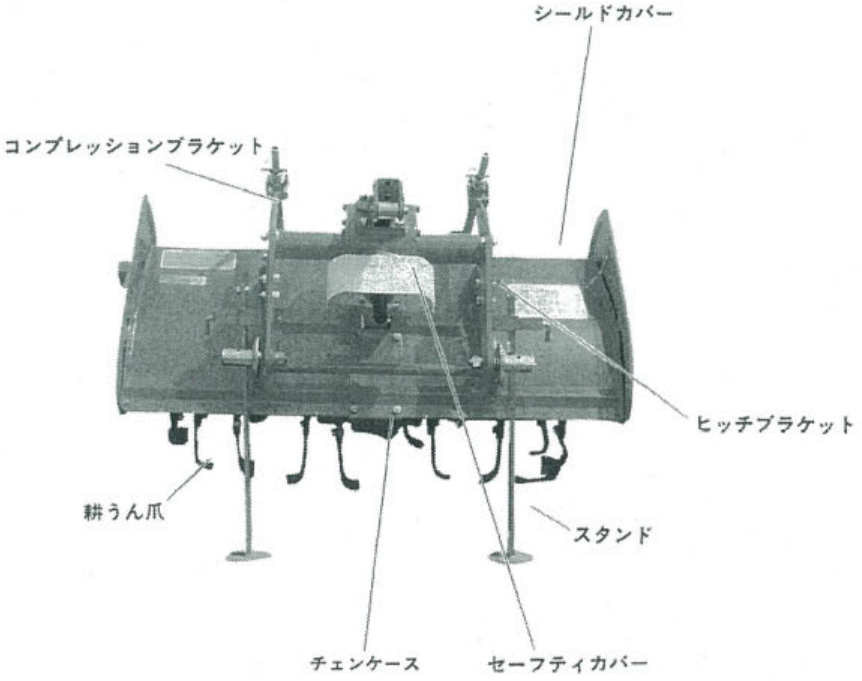
従いまして、その後のご注文に対しては、在庫限りの供給とさせていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買求めください。市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

各部の名称


ギヤケース
フレームパイプL
フレームパイプR
マスト
コンプレッション
ロッド
サイドカバー
エクステンション
エプロン
KOBASHI
UC 125T
エプロン
傾斜軸


シールドカバー
コンプレッションブラケット
ヒッチブラケット
耕うん爪
スタンド
チェンケース
セーフティカバー

深耕ローターの組立(日農工標準オートヒッチ)

1.開梱

深耕ローターは、木枠梱包されていますので開梱してください。

⚠注意

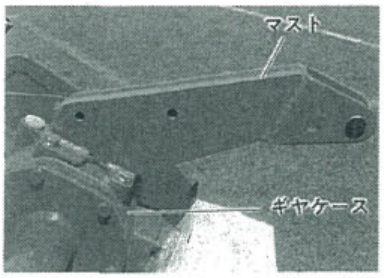
木枠梱包には、スクリュウクギが使用されています。クギの踏み抜きなどないように注意して開梱してください。

2. 下記の部品が本体と別梱包となっていますので深耕ローターに組付けてください。

部品名	数量	摘要
マスト	1	
コンプレッションロッド	2	
スプリング 上	2	
スプリング 下	2	
ジョイント	1	4S、3Sのみ
オートヒッチ(トップマストブラケット付)	1	4S、3Sのみ

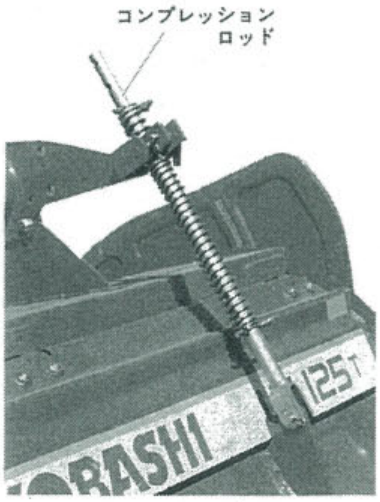
① マストの取付け

ギヤーケースに仮止めしてあるM12×25(8T)のボルト4本を(19)のメガネレンチを使用しマストを取付け強く締めつけてください。



② コンプレッションロッドの取付け

写真のようにコンプレッションロッドをコンプレッションザに通してエプロンとつないでください。



深耕ローターの組立（日農工特3Pヒッチ）

1．開梱

深耕ローターは、木枠梱包されていますので開梱してください。

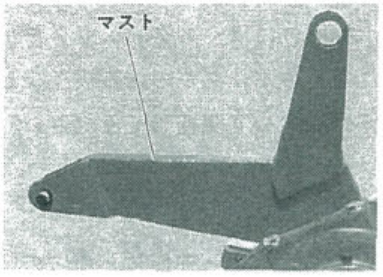
> **⚠注意**
>
> 木枠梱包には、スクリュウクギが使用されています。クギの踏み抜きなどないように注意して開梱してください。

2． 下記の部品が本体と別梱包となっていますので深耕ローターに組付けてください。

部　品　名	数量	摘　　要
マスト	1	
コンプレッションロッド	2	
スプリング　上	2	
スプリング　下	2	

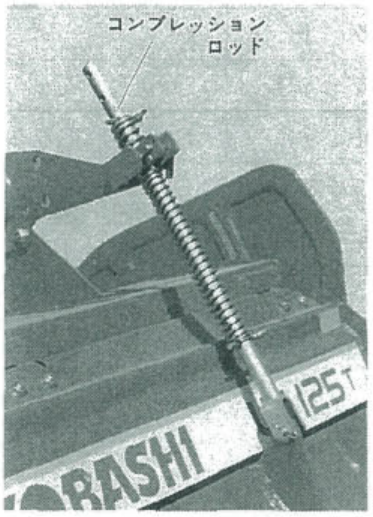
① マストの取付け

ギヤーケースに仮止めしてあるM12×25(8T)のボルト4本を(19)のメガネレンチを使用しマストを取付け強く締めつけてください。



② コンプレッションロッドの取付け

写真のようにコンプレッションロッドをコンプレッションザに通してエプロンとつないでください。



深耕ローターの組立(直装)

1．開梱

深耕ローターは、木枠梱包されていますので開梱してください。

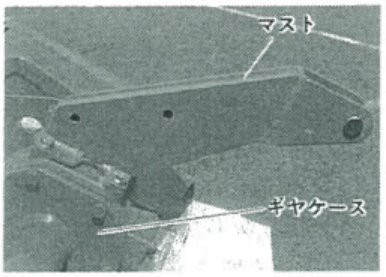
> **⚠注意**
>
> 木枠梱包には、スクリュウクギが使用されています。クギの踏み抜きなどないように注意して開梱してください。

2．下記の部品が本体と別梱包となっていますので深耕ローターに組付けてください。

部　品　名	数量	摘　　要
マスト	1	
コンプレッションロッド	2	
スプリング　上	2	
スプリング　下	2	
ジョイント	1	KTAC69A

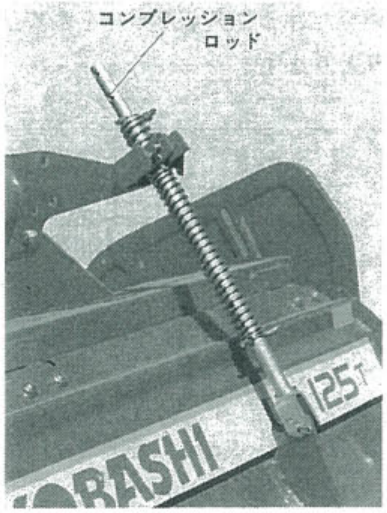
① マストの取付け

ギヤーケースに仮止めしてあるM12×25(8T)のボルト4本を(19)のメガネレンチを使用しマストを取付け強く締めつけてください。



② コンプレッションロッドの取付け

写真のようにコンプレッションロッドをコンプレッションザに通してエプロンとつないでください。



ジョイントの取付準備

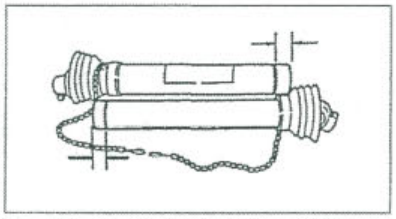
取扱い上の注意

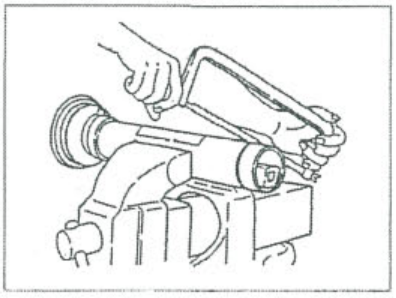
長すぎるジョイントを装着しますとトラクターのＰＴＯ軸と作業機の入力軸を突き上げて破損させます。又、短かすぎますと、ジョイントのカミ合わせが不足して、チューブが破損します。

お願い 標準のジョイントがトラクターによっては、長い場合があります。トラクター別装着表（P36～）を参照の上、切断長さを確認の上、チューブとセフティカバーのオス側メス側を切断してください。

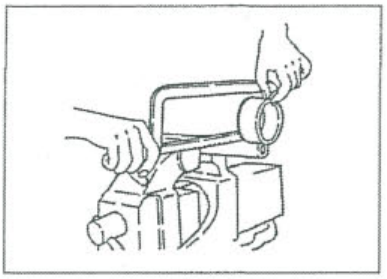
1 切断方法

1．長い分だけセフティカバーをオス、メス両方切りとります。

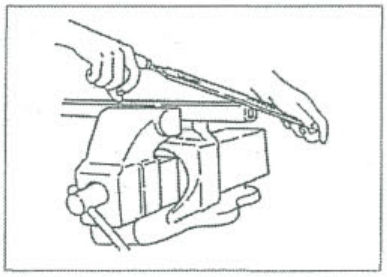




2．切りとったセフティカバーと同じ長さでチューブをオス、メス両方切断します。



3．切り口をヤスリでなめらかに仕上げ、切り粉を取除き、グリスを塗布して、オス、メスを組みあわせます。

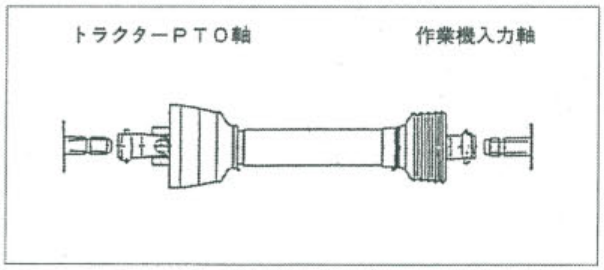


4．ジョイント切断時にセフティカバーを取外した場合は、必ずジョイントに外したセフティカバーを取付けてください。

2 取付方法

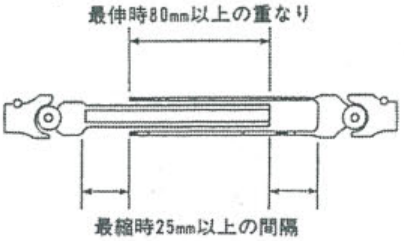
1．ジョイントの、ノックピンを押しながら軸に挿入、軸の溝にノックピンをはめ込み抜け止めをします。ノックピンが正確に軸溝にはまっているか確認してください。
ピンの「**頭が10㎜以上**」でているか、トラクター側と作業機側のノックピンを確認してください。

2．広角ジョイントの取付方法
　3セットの時に、広角ジョイントを取付ける場合には、必ず、広角側をトラクター側ＰＴＯ軸に取付けてください。

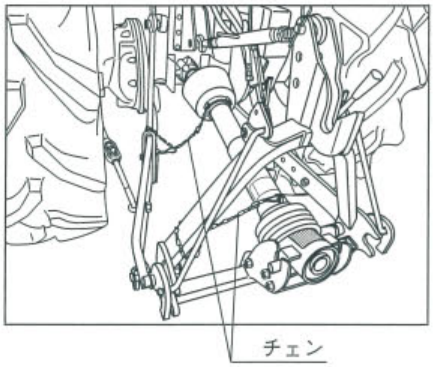


3　長さの確認

1．トラクターの3点リンクにオートヒッチを取付け、トップリンクの長さを指定の長さに調節してください。
2．油圧をいっぱいに下げて、4セットジョイントをセットしてください。
　（3セットの場合は、作業機を装着してから次の確認を行います。）
3．徐々に油圧を上げて、ジョイントが縮んだ状態でも、軸を突き上げないことを確認してください。
4．油圧を上下してカバーのスキマを確認してください。



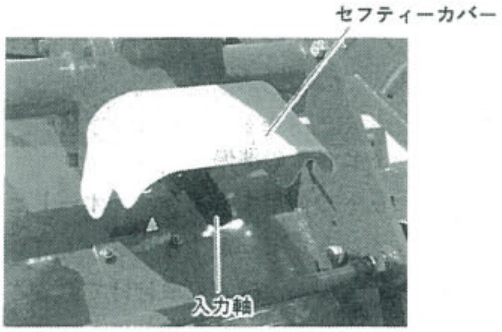
5．ジョイントセフティカバーのチェンを固定し、回り止めをします。この時油圧をいっぱい下げてもチェンが緊張しないようにたるみを持たせてください。



4　入力軸セフティカバーの取付け

⚠危険

セフティカバーを取外して使用すると、死傷することがありますので、必ず取付けたままで使用してください。

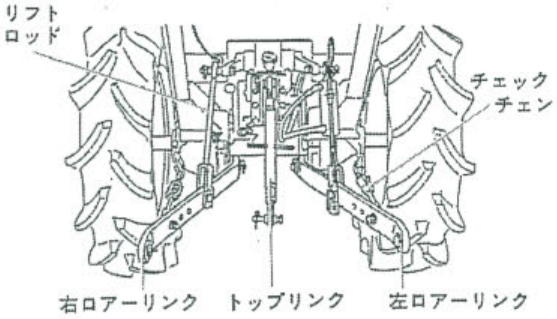


トラクターへの装着（日農工標準オートヒッチ）

1 装着前の準備

1．トラクターの準備

本機の装着方法は標準3点リンク式のヒッチです。もしトラクターに特殊3点リンク式のロータリーを装着されている場合は、トップリンクブラケットを外し、トップリンクを標準3点リンク用の長いトップリンクと付け替えてください。又、ドローバーがジョイントに干渉する場合は、ドローバーの位置を変えるか取外しをしてください。

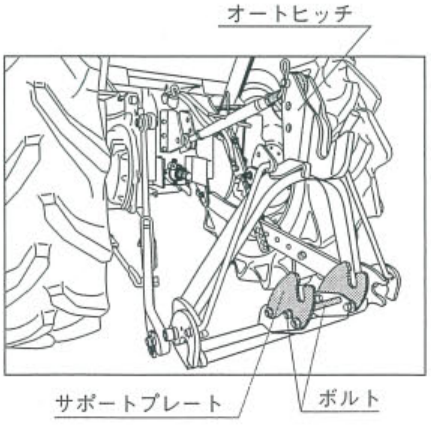


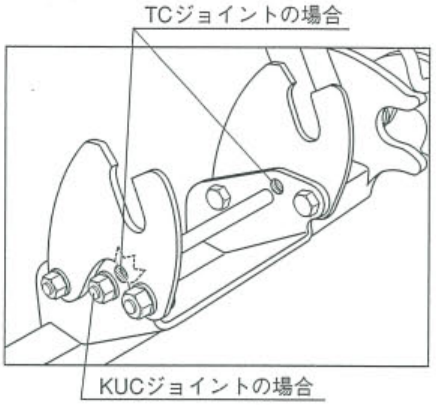
取付位置は、本書のトラクター別装着寸法表36ページを参照の上、トップリンク長さやリフトロッド位置を確認、取付けてください。

2．オートヒッチの準備

4セットで使用する場合は、オートヒッチにジョイントをセットするサポートプレート、及び、ボルトが確実に取付けてあることを確認してください。

3セットの場合はサポートプレート、ボルトがないことを確認してください。



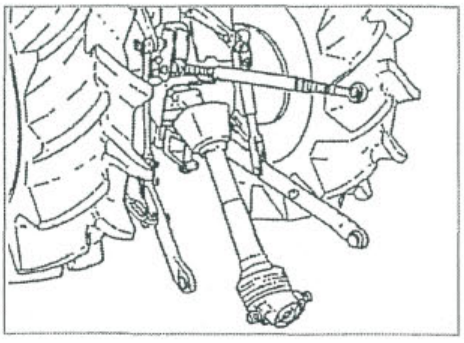


3．オートヒッチの取付け

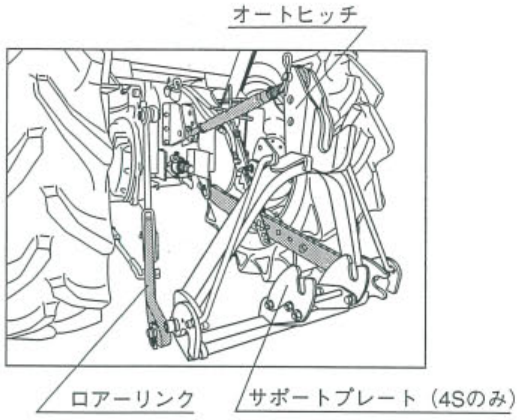
⚠ 注意

トラクターの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、ＰＴＯ軸への動力が切れていることを確認してから作業してください。

① トラクターのポジションコントロールレバーを下げ、ロアーリンクをいっぱいまで下げます。トラクターのＰＴＯ軸にジョイントの広角側を取付け、作業機入力軸側は地面に置いてください。

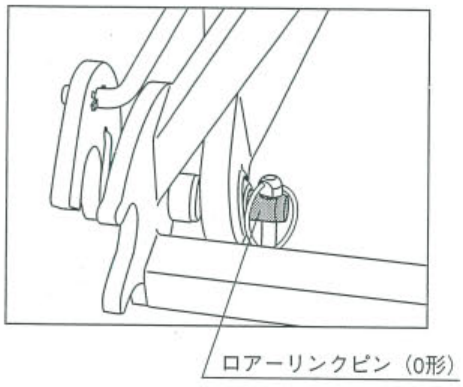


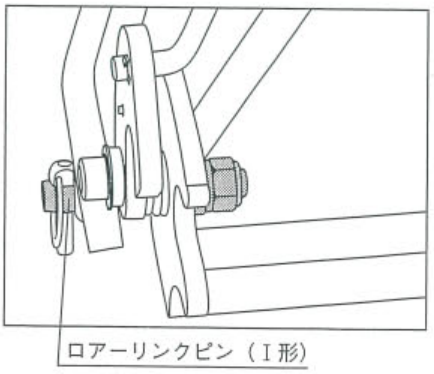
② オートヒッチを、トラクターのトップリンクに取付けます。
トップリンクピンはトラクターの付属品を使用してください。



③ 左右のロアーリンクにオートヒッチのヒッチピンを取付けてください。トラクターの３点リンク規格により、内側セットと外側セットがありますので規格に合わせてセットしてください。

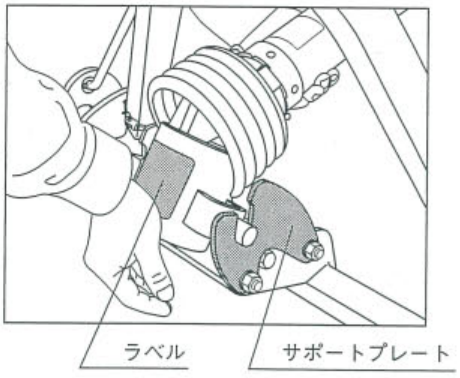
ＪＩＳ　０　…… 内側セット
ＪＩＳ　Ｉ　…… 外側セット



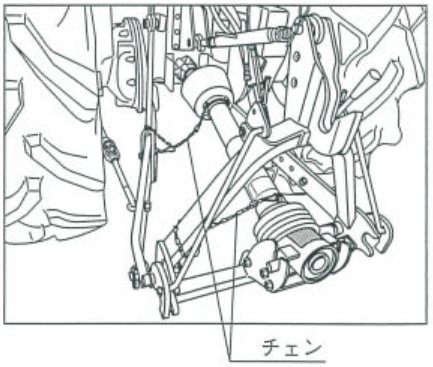


トラクターのＰＴＯ軸にジョイントの広角側を取付けます。

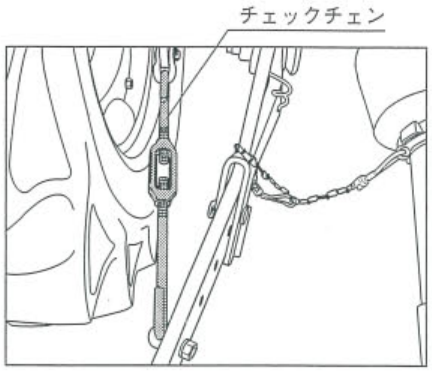
④ ジョイントのラベル面を上にし、手でジョイントを折り曲げ、軸の細い部分からサポートプレートの長穴にセットしてください。
（４セットのみ）



⑤ ジョイントセフティカバーのチェンを固定し、回り止めをしてください。



⑥ チェックチェンを張ってオートヒッチをトラクターの中心に合わせてください。また、ロアーリンクの左右の高さも均等にしてください。



⚠ 注意

装着が終わりましたら、各部のトメピンやトップリンクピンの抜け止めが確実になされていることを確認してください。

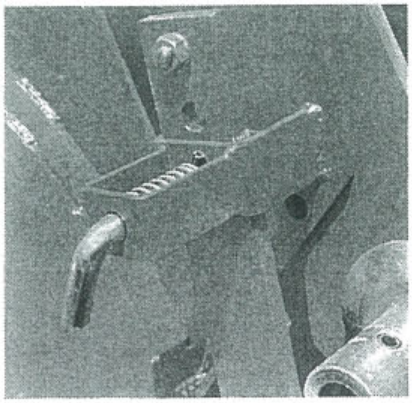
2 トラクターへの装着

⚠ 注意

1．平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2．夜間の場合は適切な照明を用いてください。
3．トラクターと作業機の間には人が入らないよう注意してください。
4．二人作業の場合は互いに合図しあって作業をしてください。

1．作業機を装着姿勢にします

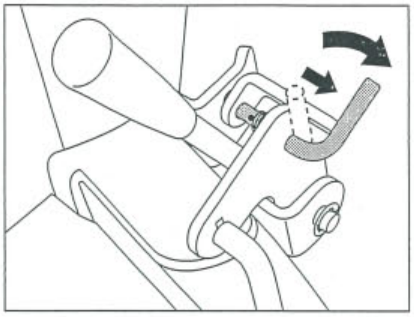
作業機を持ち上げてスタンドを最下げの位置で固定します。

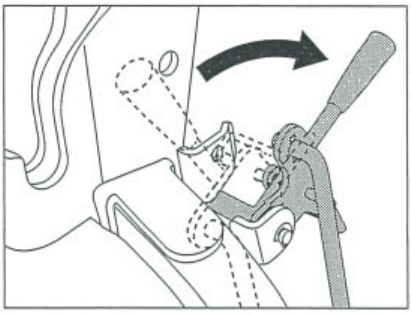


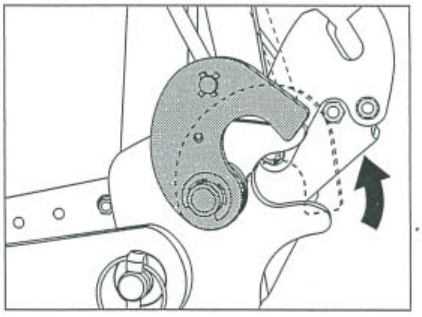
2．オートヒッチフックのロック解除

装着前に、ロックピンを引いて、イラストのようにロックが解除される位置へセットしてください。

レバーをトラクタ側に倒し、フックが開いた状態にしてください。







⚠ 注意

レバーを倒した状態にしたまま、油圧を上下しますとレバーとトラクタが干渉する場合がありますので、干渉に注意して装着を行ってください。

干渉する場合は、干渉しない位置まで下げてからレバーを操作してください。

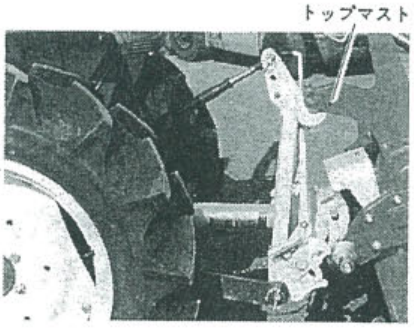
3．取付け

・バックしてヒッチを合わせる
トラクターのＰＴＯの変速はニュートラルにしておいてください。

オートヒッチを下げて、トラクターをゆっくり作業機に近づけ、作業機のマスト先端とオートヒッチのトップを合わせます。
この時トラクターと作業機が直角になるようにしてください。

4．フックを合わせてリフトアップ

ポジションコントロールレバーを「**上げる**」にして、作業機をゆっくりとリフトアップすると、オートヒッチのロアーフックとジョイントのクラッチ部は自動的に接続、ロックされます。ジョイントが噛み合わなかったりした場合は、ポジションコントロールレバーを下げて一度前進、再度最初からやり直してください。

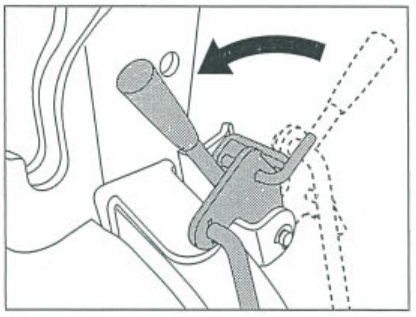


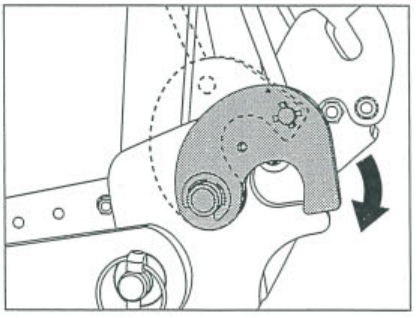
5．フックを閉じてロック

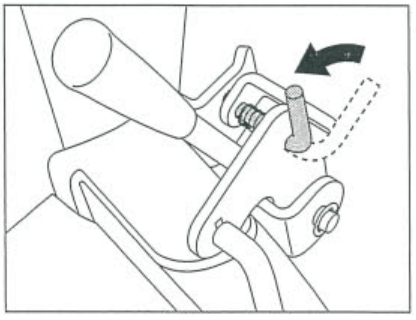
⚠注意

作業が終わって作業機を取外すまでは、オートヒッチのレバーには絶対に手をふれないでください。ロックが解除し作業機がはずれます。

オートヒッチアームのフック部に作業機のガイドカラーが両方とも入っていることを確認してから、オートヒッチアームのレバーを作業機側に倒してフックを閉じます。
レバーについているロックピンをイラストのようにオートヒッチアームのロックプレートの穴に挿入して、不用意に作業機が外れないように確実にロックしてください。

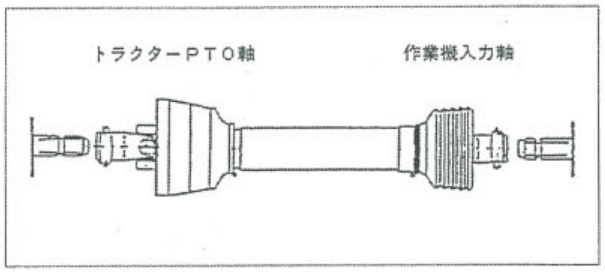






6．広角ジョイントの取付方法

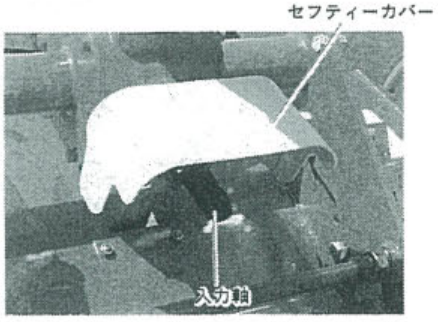
3セットの時に、広角ジョイントを取付ける場合には、必ず、広角側をトラクター側ＰＴＯ軸に取付けてください。



ジョイントセフティカバーのチェンを固定し、回り止めをします。この時作業機をいっぱい下げてもチェンが緊張しないようにたるみを持たせてください。

⚠ 危険

セフティカバーを取外して使用すると、死傷することがありますので、必ず取付けたままで使用してください。



7．スタンドは取外してください。

取扱い上の注意

1．最初の装着時には、作業機をゆっくりあげながら、トラクターと作業機が干渉しないか確認してください。特に、キャビン付きトラクターの場合には、背面のガラスを割らないように注意してください。

2．トラクターによっては、スイッチ一つで自動で最上部まで上昇する機構がありますが、必ず手動で干渉の有無を確認してから使用してください。又、作業機が勢いよく上がるため10cm以上の余裕を持って上げ規制をしてください。

3．ポジションコントロールレバーを徐々に上げて、ジョイントが一番縮んだ状態でもジョイントが突き上げないことを確認してください。

4．トップリンクやロアーリンクの取付位置、及びリフトロッドやトップリンクの長さを変えた場合にも干渉の有無を確認してください。

5．左右の水平調節についても注意してください。

3 トラクターからの取外し

⚠ 注意

作業機を取外す場合は、平坦で地盤のしっかりした所で、装着のためのスペースが十分とれるところで行ってください。

1．スタンドの取り付け

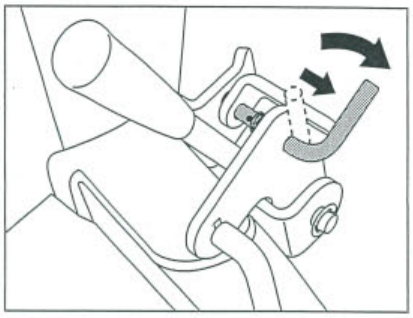
作業機を持ち上げてスタンドを最下げの位置で固定します。

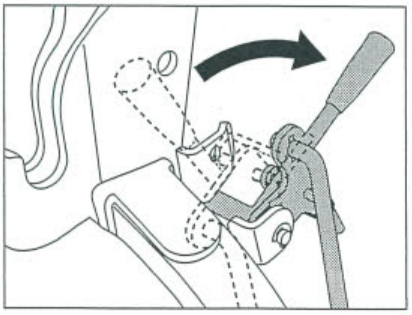
(装着時と同じ状態に調整します。)

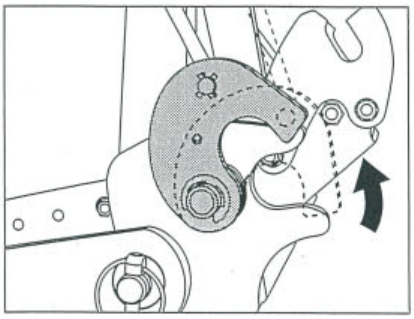
2．オートヒッチフックのロックの解除

作業機をリフトアップしてから、ロックピンを引いて、イラストのようにロックが解除される位置へセットしてください。

レバーをトラクタ側に倒し、フックが開いた状態にしてください。







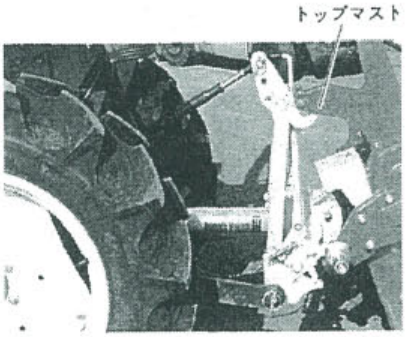
▲ 注意

レバーを倒した状態にしたまま、油圧を上下しますとレバーとトラクタが干渉する場合がありますので、干渉に注意して装着を行なってください。

干渉する場合は、干渉しない位置まで下げてからレバーを操作してください。

3．作業機を下げる

ポジションコントロールレバーを「下げる」にして、作業機を下げるとロアーフック部は外れます。次にポジションコントロールレバーを下げながらトラクターをゆっくり前進させると作業機は外れます。



◆はずれない場合は、場所が平坦でないとか、トラクターがまっすぐ前進していないなどの原因がありますので、再度動作をやり直してください。

4 装着後のトラクターとの調整

1．チェックチェンの調整(左右の振れ)

作業機を持ち上げた状態で、作業機の入力軸とトラクターのＰＴＯ軸を合わせて、左右の横振れを確認して、横振れが10㎜以内になるように、左右均等にチェックチェンを張ってください。

2．トップリンクの調整

作業機を地面に接地させ横側から見てPICシャフトが前傾18°となるようにトップリンクを調整します。

(但し、耕深400㎜の時、PICシャフトはほぼ水平)

⚠注意

トップリンクの調整は、作業機を接地させて行ってください。トップリンクが抜けて作業機が落下することがあり、危険です。

3．リフトロッドの調整（左右の水平）

作業機を持ち上げ、後方より見て左右が水平になるように、トラクターのレベリングハンドル、又は、油圧スイッチを操作し、調整してください。

4．ジョイントの異音について

ジョイントと作業機の入力軸とが直線に近いほど異音は少なくなります。

取扱い上の注意

作業機を最上位置に上げた状態で回転させますと、異音が発生し、ジョイントに無理がかかり、損傷の原因になります。回転しても、振動や、音がでない位置にポジションコントロールレバーのストッパーをセットしてください。

トラクターへの装着（日農工特殊３Ｐヒッチ）

UC-5-S・UC-5-T・UC-5-U・UC-5-MU

いずれの型式も、トラクターに装着されている純正ロータリーと同様の手順で、作業機の取付け、取外しができます。又、純正ロータリーのオートヒッチ、トップリンク、ジョイントがそのまま使用できます。

◆メーカーによりオートヒッチの呼び名が異なりますので注意してください。

1　トラクターへの装着

⚠注意

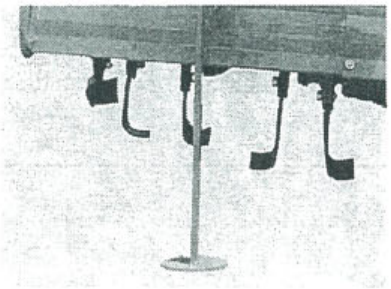
1．平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2．夜間の場合は適切な照明を用いてください。
3．トラクターと作業機の間には人が入らないよう注意してください。
4．二人作業の場合は互いに合図しあい作業をしてください。

1．トラクターの準備

ロアーリンク、リフトロッドは、純正ロータリーと同じ位置(特３Ｐ)で、又、オートヒッチはロアーリンクに取付けた状態で本作業機は装着できます。

2．作業機の準備

作業機のスタンドを最下げの位置で固定します。



トラクターへの装着(直装)

UC125・145・165

装 着 要 領

トラクターへの装着手順

装 着 順 序	装 着 手 順 解 説
トラクターを後退させローターの入力軸に中心を合わせる	トラクターと作業機の中心を一致するように合わせて，トラクターを作業機のロアーリンクピンとロアーリンク穴の中心が一致する所まで後退する。
ロアーリンク装着（左側より）	ロアーリンクピンを後方より見て左側、続いて右側のリフティングロッドを調節し取り付けてください。
トップリンク装着	トップリンクを作業機のトップマスト上部のトップリンク穴に取り付け、リンクピンで固定してください。作業機を地面に接地させ、横側から見てPICシャフトが前傾約18°となるようにトップリンクを調整します。 (但し、耕深400㎜時PICシャフトはほぼ水平)
リフティングロッドの調節	作業機を上げた状態で左右のバランスを点検してください。作業機が水平でないと耕深が均一になりません。リフティングロッドの長さを調節し、作業機が水平になるようにしてください。
チェックチェンの調整	次に作業機を油圧で上げた状態で左右への横ぶれを確認してください。 横ぶれが10㎜以内になるように左・右均等にチェックチェンを張ってください。
ジョイント装着と調整	トラクターのエンジンは停止した状態で作業機は地上に下げ、ジョイントをトラクターのＰＴＯ側、次に作業機側入力軸の順序で取付けます。装着後、耕うん軸を回転させながら作業機を上下に動かし異常音の発生を確かめてください。異常音発生の場合はトラクターのトップリンクの長さを調節して異常音の出ないようにしてください。

作業前の点検

作業機の正常な機能を発揮させるため、又、故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。下記の始業点検は毎日欠かさず行ってください。

⚠ 注意

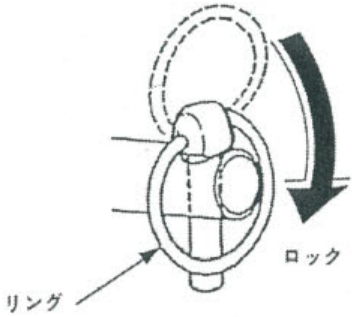
1. 点検は平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. トラクターのエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてから行ってください。
3. 作業機は地面におろしてから行ってください。作業機を持ち上げた状態で点検する必要がある場合は、油圧をロックし、落下防止をするとともに、台などを耕うん軸の下に置き、作業機が絶対落下しないようにしてから行ってください。

1 各部のボルト・ナットのゆるみ

各部のボルト・ナット類に緩みはないか、増し締めしながら点検してください。特に耕うん爪取付ボルトは緩み易いので点検が必要です。

尚、新品の場合は使用1時間で点検を行ってください。

又、ピン類も全てそろっていることを確認してください。又、リンチピンのリングが確実にロックされていることを確認してください。

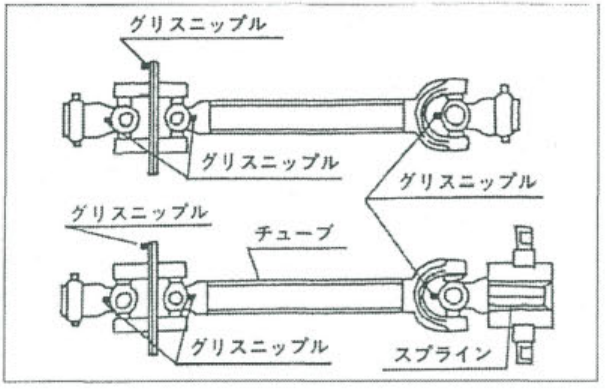


2 ジョイントへのグリスアップ

ジョイントの各部にグリスアップしてください。

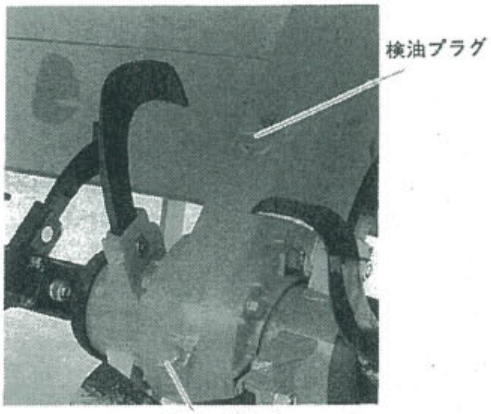
① グリスニップル

② スプライン



3 オイル量

チェンケースの後部に検油プラグがありますのでゆるめてオイルがあるか確認してください。プラグ面より少ない場合はプラグ面まで補給してください。(ギヤーオイル#90)



点検項目	種類	オイル量	点検・交換時間
ジョイントへのグリス注入・塗布	グリス	適量	毎作業前
チェンケースのオイル交換	#90	1.7ℓ	初期 50時間 その後 150時間

4 ジョイントのノックピン

ノックピンが正確に軸溝にはまっているか確認してください。ピンの**「頭が10cm以上」**出ているか、トラクター側、作業機側のノックピンを確認してください。

5 空転、暖機運転

作業前には空転させ、各部より異音が発生していないか確認してください。又、暖機運転を5～10分行ってください。

移動、圃場への出入り

⚠ 警告

1．移動の際は、作業機を持ち上げ、油圧ロックをし、作業機の回転を止めてください。又、チェックチェンも確実に張れているか確認してください。
2．移動の際は、エクステンションエプロンがたたまれていることを必ず確認してください。
3．トラックへの積み込み、坂の登りに、トラクターの前輪が浮き上がるとハンドルが利かず危険です。フロントウエイトを着けて作業機を下げて登ってください。
4．前後、左右に気をくばり、安全を確認しながら走行してください。高速運転、急発進、急ブレーキ、急旋回はしないでください。
5．圃場に入るときは、必ず前進で速度を下げて、うねや段差に対して直角に進んでください。
6．畦畔が高い時は、丈夫で滑り止めのあるアユミ板を使用し、傾斜角が14度以下になるようにしてください。

耕うん爪の種類と取付方法

1 耕うん爪及び取付けボルトの種類と本数

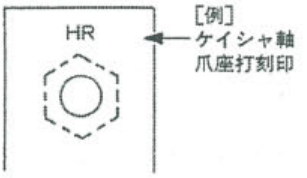
名　　称	規　　格	1　台　分　数　量		
		UC125	UC145	UC165
ナ　タ　爪　左	UJ256L	8	10	12
ナ　タ　爪　右	UJ256R	8	10	12
クロス爪　左	UJ256XPL	2	2	2
クロス爪　右	UJ256XPR	2	2	2
偏心クロス爪　左	UJ256XPL	1	1	1
偏心クロス爪　右	UJ256XPR	1	1	1
偏　心　爪　左	UJ256PL	2	2	2
偏　心　爪　右	UJ256PR	2	2	2
取付けボルト	M12×35P1.5 8T (B＝19)	10	10	10
取付けボルト	M12×30P1.5 8T (B＝19)	16	20	24

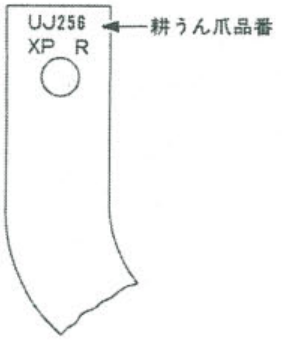
2 耕うん爪取付方法

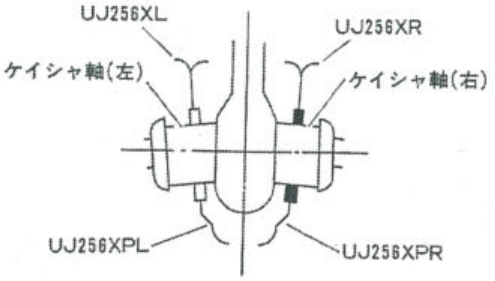
(1) ケイシャ軸部の取付け

ケイシャ軸左右への爪取付けは、爪座の側部へ打刻印があります。下記表を参照して、打刻印と耕うん爪品番を合わせて取付けてください。（取付けボルト M12×35）

爪座打刻印	耕うん爪品番
HR	UJ256XPR
HL	UJ256XPL
R	UJ256XR
L	UJ256XL







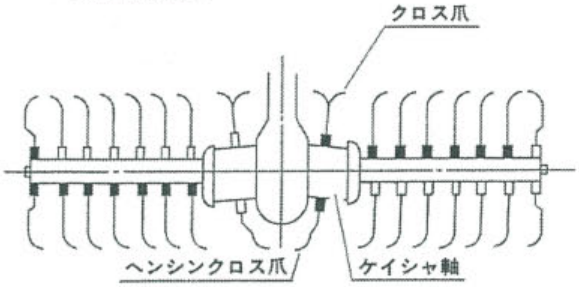
ロータリーを後方より見る

(2) 耕うん軸部の爪取付け

ロータリーを後方から見て、爪座の六角穴が右側にある爪座にはUJ256Lの爪を取付け、六角穴が左側にある爪座にはUJ256Rの爪を取付けます。(取付けボルトM12×30)

両端の爪座にはヘンシン爪(UJ256P)を内向に取付けます。(取付けボルトM12×35)

ＵＣ125型爪配列



★ローター後方より見た図

□ 六角穴　右

■ 六角穴　左

ケイシャ軸部爪配列は、爪座の側部の打刻印を見て行ってください。

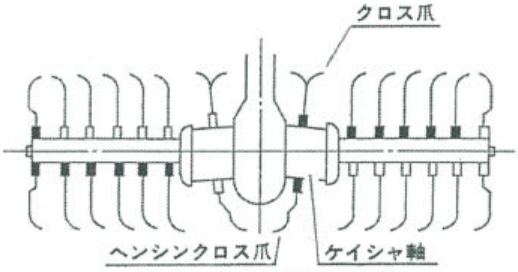
ＨＲ……ヘンシンクロス爪Ｒ

ＨＬ……ヘンシンクロス爪Ｌ

Ｒ……クロス爪Ｒ

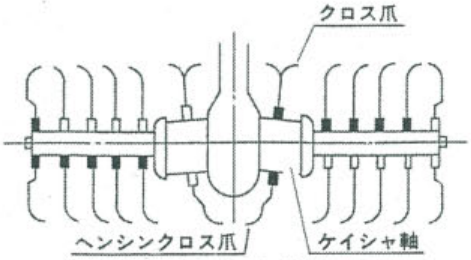
Ｌ……クロス爪Ｌ

ＵＣ145型爪配列



★ローター後方より見た図

ＵＣ165型爪配列

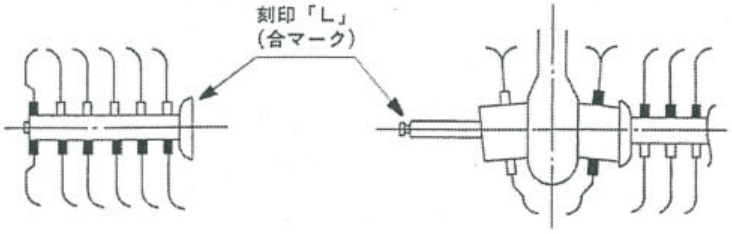


★ローター後方より見た図

(3) 耕うん軸の取付方法

耕うん軸を取外した場合は、合マークを合わせて取付けてください。

図の位置に刻印「Ｌ」(右側の爪軸の場合は「Ｒ)が打ってありますから、スプラインを差し込む時に刻印の位置を合わせて差し込んでください。



上手な作業のしかた

1　作業速度と耕うん軸回転数

作業目的と土地条件に合わせてトラクターの車速を決めてください

下記表は作業のめやすとして参考にしてください。

(1) 作　業　速　度

耕うん深さ	30cm	35cm	40cm	45cm
トラクター速度(km/h)	0.5～1.0	0.5～0.7	0.2～0.6	0.2～0.5

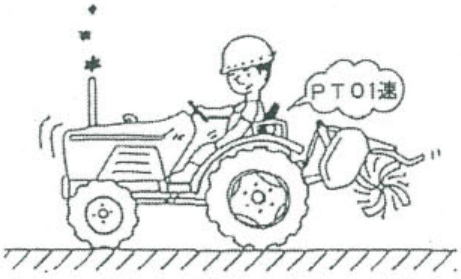
(2) 耕うん軸回転数

ＰＴＯ軸変速レバーは１速に入れ、ＰＴＯ軸回転数が540r.p.mになるようエンジン回転を保って作業を行います。

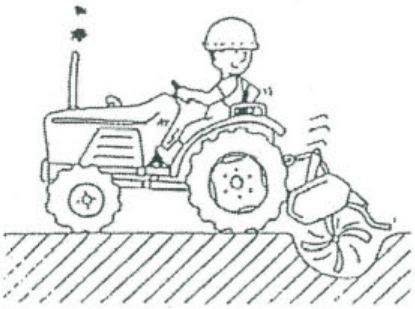
深耕ロータリーの上手な使い方

① 副変速レバーをⒸクリープに入れ、主変速レバーはⓃニュートラル位置にします。

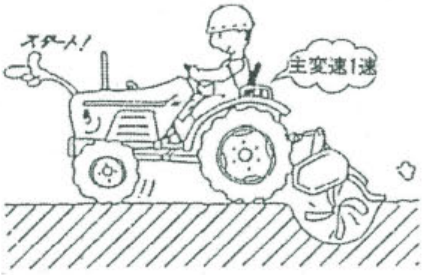
② ＰＴＯレバーを１速に入れ、エンジン回転を上げます。



③ ブレーキペダルを踏み、油圧コントロールレバーでロータリーを徐々に降し定めた深さまで深耕してください。



④ つぎに主変速レバーを①速に入れ発進してください。

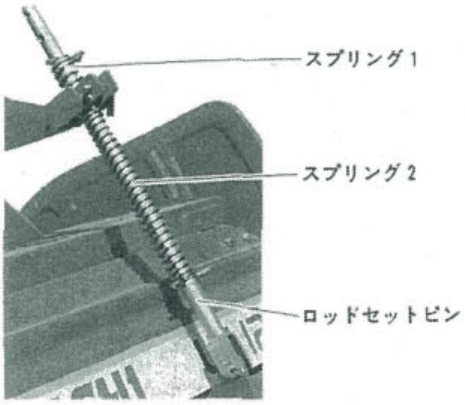


2　エプロンの調節

(1) ロッドセットピンを差し込む穴をかえて、調節バネでエプロンを押さえる力を調整します。

縮めると…エプロンが強く地面を押える

伸ばすと…エプロンの押えが弱くなる



(2) ロットセットピンを取り外してスプリングをフリーにすると、エプロンの加圧はなくなります。

3 作業操作

作業前にロータリスタンドをあげて(スタンドの下穴)ピンを差し込みます。

(1) 副変速レバーを©クリープに入れ、主変速レバーⓃニュートラル位置にします。

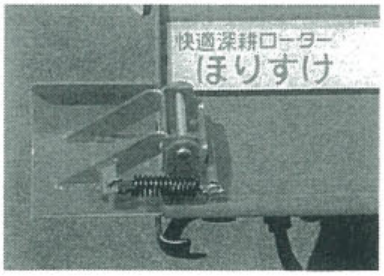
(2) ＰＴＯレバーを１速に入れ、エンジン回転を上げます。

(3) ブレーキペダルを踏み、油圧コントロールレバーでロータリーを除々に降し、定めた深さまで深耕してください。

(4) 次に、主変速レバーを１速に入れて発進します。

4 エクステンションエプロンの使用

畑の砕土作業等、平均性を向上させたい時に使用してください。



保守・点検

機械を長持ちさせるためには、普段の保守、点検が大切です。

⚠ 注意

トラクタの駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止して、油圧ロックを行い、かつ、台等を作業機の下に置き、作業機が落下しないようにしてから行ってください。

1. 作業終了後は、きれいに水洗いを行い、水分を拭き取っておいてください。

⚠ 注意（高圧洗車機）

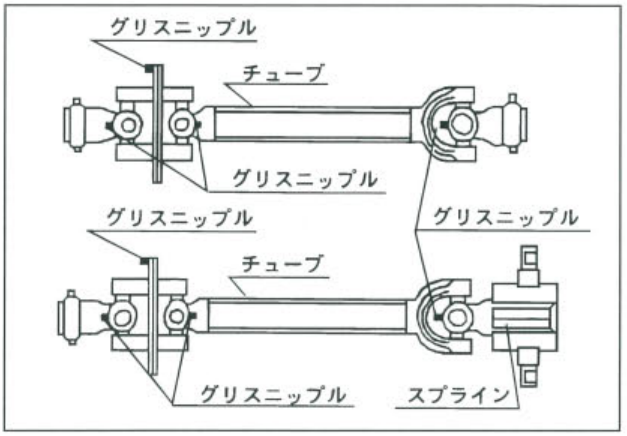
機械を損傷させないように洗車ノズルは拡散にし、2ｍ以上離して洗車してください。もし、直射や不適切に近距離から洗車すると機械の破損・損傷・故障や事故の原因になります。

例　1）シール・ラベルの剥がれ
　　2）樹脂類（カバーなど）の破損
　　3）塗装・メッキ皮膜の剥がれ

2. グリスの給油

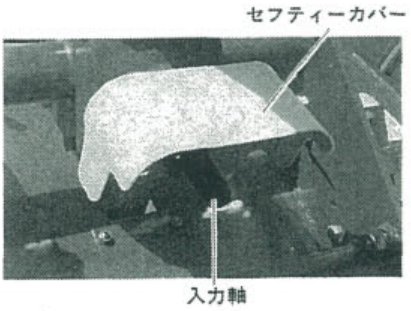
① ジョイントは分解して、スリーブのかみ合い部分に、グリスを塗布してください。
又、同時にグリスニップルに適量注入してください。

② トラクタのＰＴＯ軸と作業機の入力軸へもグリスを塗布し、格納する場合はキャップをかぶせて、サビないようにしてください。

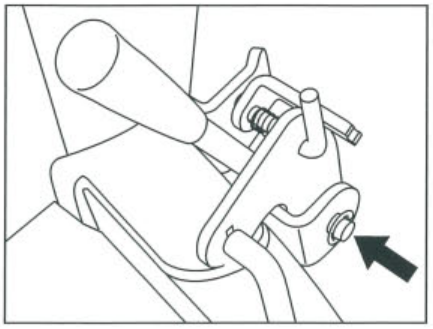


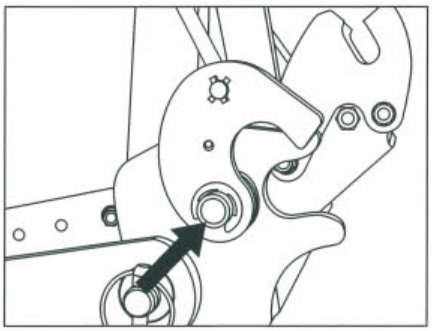
取扱上の注意

特に４セットジョイントの場合は、スプライン部がサビたり、キズついたりしますと、装着ができなくなりますので、必ず掃除を行い、グリスを塗布し、ゴミがかからないようにしてください。



3. オートヒッチの各支点部分にオイルを適量塗布してください

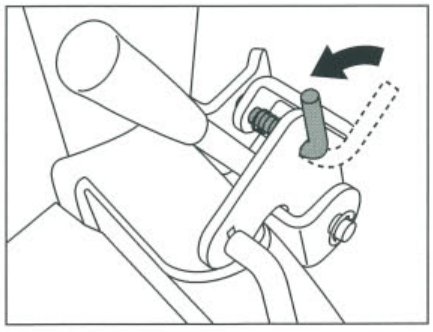




保守・点検

1．平坦で地盤のしっかりした、屋根のある場所に格納してください。

2．オートヒッチを作業機に取付けて保管する場合は、レバーについているロックピンをイラストのようにオートヒッチアームのロックプレートの穴に挿入して、不用意に作業機が外れないように確実にロックしてください。



3．格納後はみだりに子供等が触れないような処置をしてください。

主要諸元

型式		UC125T-4S/3S/0S	UC145T-4S/3S/0S	UC165T-4S/3S/0S
駆動方式		センタードライブ方式(アップカット)		
機体寸法	全長 (mm)	1260		
	全幅 (mm)	1280	1480	1680
	全高 (mm)	1325		
重量 (kg)		240 (220)	245 (225)	250 (230)
適応トラクタ (PS)		18～28		
装着装置の種類		日農工標準オートヒッチO・I形		
標準耕幅 (cm)		120	140	160
標準耕深 (cm)		30～45		
標準作業速度 (km/h)		0.3～1.0		
入力軸回転数 (r.p.m)		540		
耕うん軸回転数 (r.p.m)		160		
耕うん爪取付方法		ホルダータイプ		
標準爪の種類と本数	深耕爪 (R.L)	各8本	各10本	各12本
	偏心深耕爪 (R.L)	各2本	各2本	各2本
	クロス爪 (R.L)	各2本	各2本	各2本
	偏心クロス爪 (R.L)	各1本	各1本	各1本
耕うん爪外径 (cm)		50		
耕深調節機構		油圧コントロールポジション		

※この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

( ) 重量は0S

主要諸元

型式		UC125T-S/T/(M)U	UC145T-S/T/(M)U	UC165T-S/T/(M)U
駆動方式		センタードライブ方式(アップカット)		
機体寸法	全長 (mm)	1260		
	全幅 (mm)	1280	1480	1680
	全高 (mm)	1325		
重量 (kg)		220	225	230
適応トラクタ (PS)		18～28		
標準耕幅 (cm)		120	140	160
標準耕深 (cm)		30～45		
標準作業速度 (km/h)		0.3～1.0		
入力軸回転数 (r.p.m)		540		
耕うん軸回転数 (r.p.m)		160		
耕うん爪取付方法		ホルダータイプ		
標準爪の種類と本数	深耕爪 (R.L)	各8本	各10本	各12本
	偏心深耕爪 (R.L)	各2本	各2本	各2本
	クロス爪 (R.L)	各2本	各2本	各2本
	偏心クロス爪 (R.L)	各1本	各1本	各1本
耕うん爪外径 (cm)		50		
耕深調節機構		油圧コントロールポジション		
装着方式		GS-S	日農工特殊3Pオートヒッチ A・I形	
		GS-T	〃	A・II形
		GS-(M)U	〃	B形

※この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

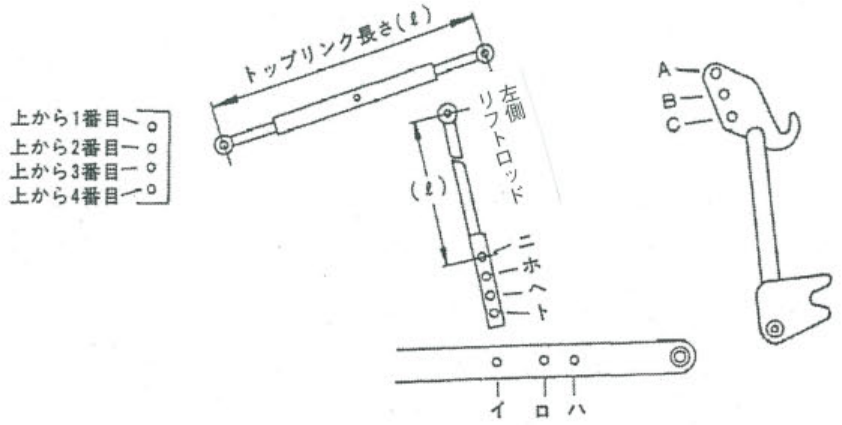
主要諸元

型式		UC125	UC145	UC165
駆動方式		センタードライブ方式(アップカット)		
機体寸法	全長 (mm)	1260		
	全幅 (mm)	1280	1480	1680
	全高 (mm)	1325		
重量 (kg)		220	225	230
適応トラクタ (PS)		18～28		
装着装置の種類		標準3点リンク直装O・I形		
標準耕幅 (cm)		120	140	160
標準耕深 (cm)		30～45		
標準作業速度 (km/h)		0.3～1.0		
入力軸回転数 (r.p.m)		540		
耕うん軸回転数 (r.p.m)		160		
耕うん爪取付方法		ホルダータイプ		
標準爪の種類と本数	深耕爪 (R.L)	各8本	各10本	各12本
	偏心深耕爪 (R.L)	各2本	各2本	各2本
	クロス爪 (R.L)	各2本	各2本	各2本
	偏心クロス爪 (R.L)	各1本	各1本	各1本
耕うん爪外径 (cm)		50		
耕深調節機構		油圧コントロールポジション		
ジョイント		KTAC69A		

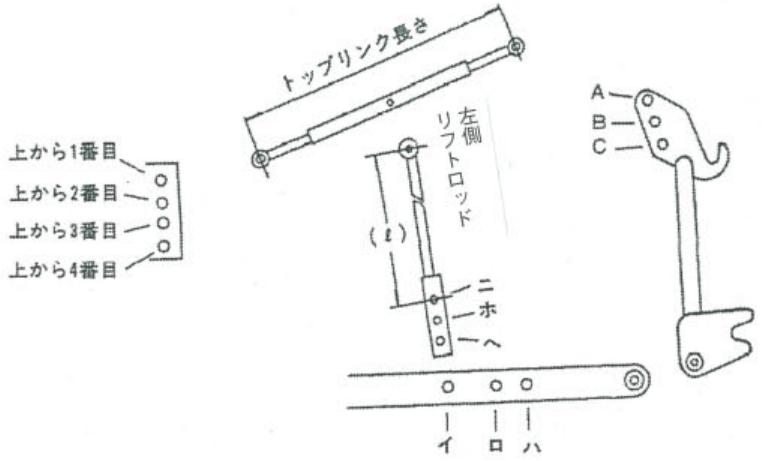
※この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

トラクター別装着表

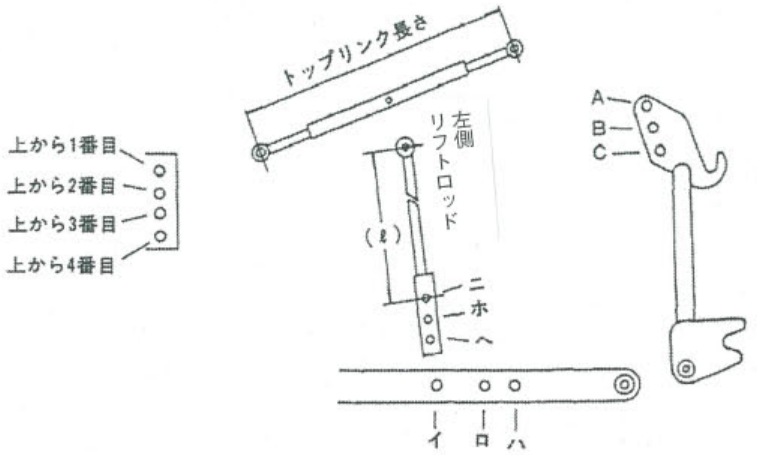
トラクター型式		トラクター部の調整				オートヒッチ	ジョイント切断寸法	
		トップリンク取付穴	ロアーリンク取付穴	リフトロッド取付穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付穴	－4S TC71M	－3S TC69
L_1-18・185・195 L_1-20・205・215		3	イ	ホ	660	C		
L_1-22・225・235(Q) L_1-24・245・255(Q)		3	イ	ヘ	680	A		
L_1-26・265・275(Q)		3	イ	ヘ	740	A		
L_1-28・285		3	イ	ニ	750	A		
L_1-235DJ(Q)		3	イ	ホ	670	B		
L_1-275DJ(Q)		3	イ	ホ	750	A		
GL-19・21・23 GL-200・220 GL-240		3	イ	ヘ	640	A		
GL-25・26・27・23DJ GL-260・280・268 GL-240J		3	イ	ヘ	690	A		
GL25K・GL260K		3	イ	ヘ	620	C	50mm	50mm
GL200・220Q・240Q		1	イ	ヘ	590	A		
キャビン付	GL25Q・26Q・27Q GL23DJ GL260Q・268Q・243Q	2	イ	ヘ	660	A		
	GL27DJ・GL280Q	3	イ	ホ	750	A		



トラクター型式	トラクター部の調整				オートヒッチ	ジョイント切断寸法	
	トップリンク取付穴	ロアーリンク取付穴	リフトロッド取付穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付穴	−4S TC71M	−3S TC69
GT-3・5・8	3	イ	ト	600	A	70mm	
FX 16	3	イ	ホ	500	C	70mm	
F(X)17 F(X)18	3	ロ	へ	600	A	30mm	
F(X)20・215・FF245 F(X)22・235 F(X)24・255	3	イ	ホ	640	C		
F(X)265・FX30S	3	ロ	ホ	680	A		
FX26・285	3	イ	ホ	570	A		
FX28	3	イ	ホ	560	A		
FX215M・235M・265M	3	ロ	へ	680	A		
FX165 FF205・225 F(X)175 F-180・200 F(X)195 F-220	3	ロ	へ	600	A	30mm	30mm
F190・210・230	3	イ	ホ	640	A		
F190Q・210Q・230Q	1	イ	ホ	600	A		
F250(Q)	3	イ	へ	640	A		
RS24(Q)・27(Q)	3	イ	ホ	590	A	50mm	50mm
FH 16	3	イ	ホ	540	A	70mm	70mm
F-7	3	イ	ホ	610	A	70mm	70mm
FP175・185	2	イ	ホ	600	A		
D228L	2	イ	ニ	580	A	50mm	50mm
D208(Q)・228(Q) FV200(Q)・220(Q)	2	イ	ニ	550	A	50mm	50mm
FV230(Q)・250(Q)・270(Q) D238(Q)・258(Q)・278(Q)	2	イ	ホ	550	A	50mm	50mm

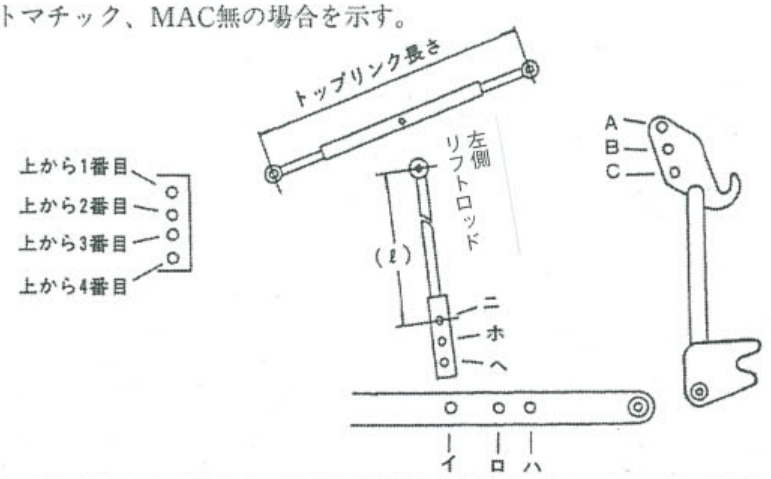


トラクター型式	トラクター部の調整				オートヒッチ	ジョイント切断寸法	
	トップリンク取付穴	ロアーリンク取付穴	リフトロッド取付穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付穴	－4S TC71M	－3S TC69
FV280(Q) D288(Q)	2	イ	ホ	620	A		
AF16・17・18	3	イ	ホ	600	A	70mm	70mm
AF22・24	3	イ	ホ	600	C		
AF22Q・24Q	1	イ	ホ	580	A		
AF26(Q)・28(Q)	3	イ	ホ	700	A		
TX18・20・22	3	D	ヘ	610	A	50mm	50mm
TX240	3	イ	ヘ	640	A		
TX240Q	1	イ	ヘ	590	A		
TX260・280	3	イ	ヘ	690	A		
TX260Q	2	イ	ヘ	660	A		
TX280Q	3	イ	ホ	750	A		
N189	3	イ	ホ	450	C	70mm	70mm
N209	3	イ	ホ	480	C	30mm	30mm
N229・239	3	イ	ホ	500	C		
N249・279	3	イ	ホ	510	C		
N179・200	3	イ	ホ	540	A	100mm	100mm
N192・123 NX200・220・240	3	イ	ヘ	640	A		
NX25・27 NX260・280	3	イ	ヘ	690	A		
NX280Q	3	イ	ホ	750	A		
NX200Q・220Q・240Q	1	イ	ヘ	590	A		
NX25Q・27Q NX260Q	2	イ	ヘ	590	A		



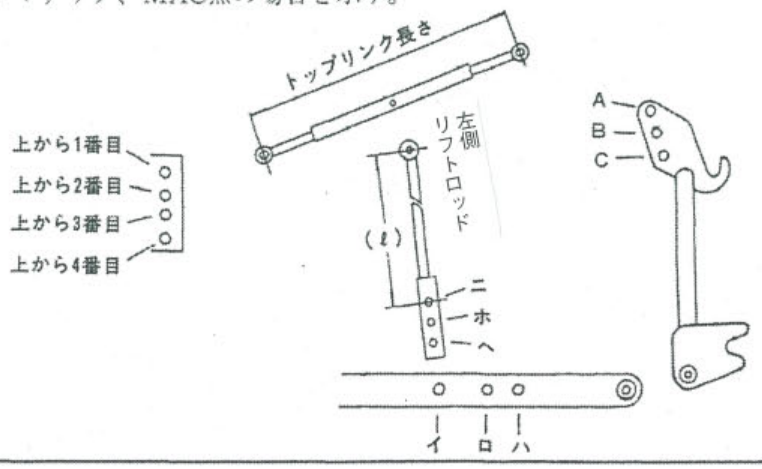
トラクター型式	トラクター部の調整				オートヒッチ	ジョイント切断寸法	
	トップリンク取付穴	ロアーリンク取付穴	リフトロッド取付穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付穴	－4S TC71M	－3S TC69
TG21・23 TG25(Q)	3	イ	ニ	600	A		
TG21Q・23Q	3	イ	ホ	600	A		
TG27(Q) TG27L	3	イ	ニ	600	A		
TU197・217・237・257 TU185・205・225・245 TU180・200・220・240	2	イ	ニ	610	A	70mm	70mm
TA210・215(Q)・227(Q) TA230・235(Q)・247(Q) TA250・255(Q)・267(Q) TA270・275(Q)・287(Q) TA207(Q)・262(Q)・263(Q)	2	イ	ホ	560	A	50mm	50mm
TF17(Q)・19(Q) TF19N(Q)	1	ロ	ニ ℓ＝420	510	A	100mm	100mm
TF17H(Q)・19H(Q)	2	ロ	ヘ ℓ＝440	530	A	100mm	100mm
TH21(Q)・23(Q)・26(Q)	3	イ	ホ ℓ＝450	570	A	70mm	70mm
TF21N(Q)・23N(Q)	3	イ	ホ ℓ＝450	590	A	70mm	70mm
TF21H(Q)	3	イ	ホ ℓ＝470	570	A	70mm	70mm
MT160・170・190	3	イ	ホ	550	A	80mm	80mm
MT225Q MT245Q MT265Q	1	イ	ホ ℓ＝461	590	A		
MT17	3	イ	ホ ℓ＝410	560	A	90mm	90mm
MT18	3	イ	ホ (ℓ＝452)	540	A	90mm	90mm

※(　)内はジャストマチック、MAC無の場合を示す。



トラクター型式	トラクター部の調整				オートヒッチ	ジョイント切断寸法	
	トップリンク取付穴	ロアーリンク取付穴	リフトロッド取付穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付穴	－4S TC71M	－3S TC69
MT20 MTX24	3	イ	ホ (ℓ＝467)	540	A	90mm	90mm
MT21・22 MT23・24 MT25・26	3	イ	ホ (ℓ＝480)	630	A		
MT27	4	イ	ホ ℓ＝480	560	A		
MTX28	3	イ	ホ (ℓ＝480)	630	A		
MT200・220・240 MT165・185・205 MTX225・245	3	イ	ホ	600	A		
MT225・245・265	3	イ	ホ ℓ＝491	630	A		
MT265LQ・285Q	1	イ	ホ ℓ＝491	640	A		
MT285・265L	3	イ	ホ ℓ＝491	670	A		
P19・21 D195・215	2	イ	ホ	560	A	50mm	50mm
D23・235(Q) D26・265(Q) D28・275(Q) D23M	2	イ	ホ	610	A		
P165 P175	2	イ	ホ	600	A		
P17	2	イ	ホ	520	A	110mm	110mm
D208(Q)・228(Q)	2	イ	ニ	550	A	50mm	50mm
D228L	2	イ	ニ	580	A	50mm	50mm
D238(Q)・258(Q)・278(Q)	2	イ	ホ	550	A	50mm	50mm
D288(Q)	2	イ	ホ	620	A		

※(　)内はジャストマチック、MAC無の場合を示す。



点検整備一覧表

時　　間	項　　目	参照ページ
新品　使用始め	チェンケース(ギヤーケース)のオイル点検	24
新品１時間使用後	全部のボルト、ナットを増し締め	24
新品50時間使用後	①チェンケース(ギヤーケース)のオイル交換	24
	②サポートハウジングのオイル注入	
毎日の　作業前	①チェンケース(ギヤーケース)のオイル量、オイル漏れの点検	24
	②ローター爪の取付ボルトの増し締め	24
	③ジョイントのグリスニップルへのグリス注入	24
	④地面から上げて空転での、異音、異常振動等、異常の点検	25
毎日の　作業後	①洗浄後、水分拭き取り	31
	②ボルト、ナット、ピン類の緩み、脱落の点検	24
	③ローター爪、爪ホルダ等の摩耗、切損の点検	27
	④入力軸へグリス塗布	31
	⑤ジョイントスプライン部へグリス塗布	24
	⑥ジョイント、ノックピンへ注油	25
	⑦可動部へ注油(エプロンのヒンジ部)	
150時間毎　又は シーズン　終了後	①ギヤーケースのオイルシール、パッキンの異常点検	24
	②チェンケース(ギヤーケース)のオイル交換とオイルシール、パッキンの異常点検	24
	③サポートハウジングのオイル注入、シールの異常点検	
	④ジョイントのシャフトへのグリス塗布	24
	⑤安全ラベルの剥がれの点検	7
	⑥無塗装部へのサビ止め	
	⑦消耗部品の早期交換	

異常診断一覧表

使用中あるいは使用後の点検時に下表の異常が発生した場合、そのままにしておきますと故障、事故の原因となります。
再使用せず、ただちに対策を行って下さい。

本体各部	症　　状	原　　因	対　　策
チェンケース	異音の発生	ベアリングの損傷	ベアリング交換
		ギヤーの損傷	ギヤー交換
		ベベルギヤーのかみ合い不良	シムで調整
	オイル漏れ	入力軸：軸受け部オイルシールの損傷	オイルシール交換
		液体パッキンの劣化	液体パッキン塗り直し
		パッキンの劣化、損傷	パッキン交換
		カバー取付ボルトのゆるみ	ボルト増し締め
	異常な高温の発生	オイル量の不足	オイル補給
		ベアリングの損傷	ベアリング交換
	異音の発生	チェンテンショナの破損	テンショナ交換
		スプロケットの損傷	スプロケット交換
		ベアリングの損傷	ベアリング交換
	オイル漏れ	軸付きシール、タワミシール、Oリングの劣化、損傷	軸付きシール、Oリングの交換
		カバー取付ボルトのゆるみ	ボルトの増し締め
	異常な高温の発生	オイル量の不足	オイル補給
		ベアリングの損傷	ベアリング交換

耕うん軸	異音の発生	軸受部のベアリングの損傷	ベアリング交換
		ローター爪ボルトのゆるみ	ボルト締め付け
		ローター爪の変形によるカバーとの干渉	ローター爪交換
	振動の発生	ローター爪軸の曲がり	ローター爪軸交換
		ローター爪、爪軸へのワラ、草等のかかり	ワラ、草等の除去
		ローター爪の配列不良	爪配列の点検
	軸回転不良	チェンの切損	チェン交換
		駆動軸の切損	駆動軸交換
		ギヤーの破損	ギヤー交換
	オイル漏れ	軸付きシールの損傷、耕うん軸ボルトのゆるみ	軸付きシール交換、ボルトの増し締め
		Oリングの劣化、損傷	パッキン、Oリング交換
	残耕の発生	ローター爪の摩耗、切損、曲がり	代かき爪の交換
		ローター爪の配列不良	爪配列の点検
	異常な土寄りの発生	ローター爪の配列不良	爪配列の点険
ジョイント	異音の発生	グリス切れ	グリスアップ
		ジョイント折れ角が不適格	マッチング姿勢の矯正
		ローターの上げすぎ	リフト量の規制
	たわみ発生	シャフトのかみ合い幅不足	長いものと交換
	スプライン部のガタ	ノックピンとヨークの摩耗	交換

用　語　解　説

アタッチメント

作業機に後付けする部品

オートヒッチ

トラクターに乗ったままワンタッチで作業機を装着できるヒッチ

クリープ

超低速の作業速度

耕深

耕うんする深さ

3点リンク

トラクターに作業機を装着するための3点で支持を行うリンク

チェックチェン

トラクターに対し作業機が左右に振れる量を規制するチェン

トップリンク

作業機を装着する3点のリンクのうち、作業機の上部を吊り下げているリンク

揚力

トラクターが作業機を上昇させるための力

ジョイント

トラクターの動力を作業機へ伝達するための軸

リフトロッド

トラクターが作業機を上げるためロアーリンクと連結しているアーム

リリーフ弁

油圧装置に規定以上の油の圧力がかかり油圧装置が破損することを防止する弁

ロアーリンク

作業機を装着する3点リンクのうち、作業機の下部を吊り下げているリンクで左右1本ずつある

ポジションコントロールレバー

作業機を上げ下げするために使用するレバー

MEMO

MEMO

MEMO

KOBASHI

小橋工業株式会社

本社・工場	〒701-0292	岡山市南区中畦684番地	☎ (086) 298-3112 (代)
北海道営業所	〒071-1248	北海道上川郡鷹栖町8線西2号6番	☎ (0166) 49-0070 (代)
東北営業所	〒024-0004	岩手県北上市村崎野13地割35-1	☎ (0197) 71-1160 (代)
関東営業所	〒321-3325	栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台47-1	☎ (028) 687-1600 (代)
新潟営業所	〒942-0041	新潟県上越市安江477-1	☎ (025) 546-7747 (代)
岡山営業所	〒701-0165	岡山市北区大内田727	☎ (086) 250-1833 (代)
九州営業所	〒861-2236	熊本県上益城郡益城町広崎1586-8 2F	☎ (096) 286-0202 (代)

http://www.kobashikogyo.com

お客様メモ

購入日	平成	年	月	日
購入店名				